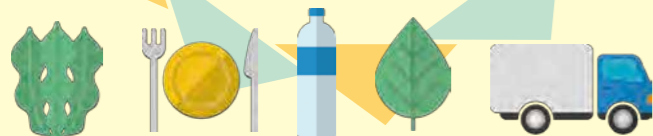


全国の  
生協で

こんなことに  
**取り組んでいます!**



パルシステム連合会

**ごちそうさま365日アクション**

パルシステム連合会では、組合員が食品ロスについて考え、行動することを目的とした取り組み「ごちそうさま365日アクション」を行いました。期間内に提示されたアクションを行うとユニセフへの寄付につながり、世界の栄養不良の子どもたちに治療用ミルクを届けるために活かされる企画などを展開しました。



コープさっぽろ

**Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦!**

コープさっぽろでは、環境保全プロジェクト「マイボトルエコアクション」の一環として、海洋プラスチックごみについて



考え、行動するイベント「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦!」を開催しています。組合員や取引先、地域の皆さんとともに、楽しみながらごみ拾いをする中で、自分に何ができるのかを考えるきっかけにつながっています。

ユーコープ

**リサイクルセンターの見学会**

ユーコープでは、リサイクルセンターの見学会を行っています。組合員から回収したカタログやペットボトルなどのリサイクル品の仕分けや圧縮作業の様子を見ることで、参加者がリサイクルの流れを知り、日々の分別について考える機会となっています。また、障がいのあるスタッフが各自の特性を活かし、生き生きと働いている様子も知ることができます。



とやま生協

**自然に親しむ環境活動**

とやま生協では、毎年環境にまつわるさまざまな活動を組合員とともにを行っています。自然に親しむ「里山の昆虫や植物を観察しよう」というイベントでは、自然に関する知識が豊富な専門スタッフと一緒に里山に入り、昆虫や植物を採集して、スマホアプリを活用しながら観察を行っています。



生協コープかごしま

**廃食油を車両燃料にリサイクル**

生協コープかごしまでは、組合員や店舗から回収した廃食油を自生協の施設でバイオディーゼル燃料にリサイクルし、配送車両の燃料として使用しています。組合員とともに地域循環型リサイクルを構築し、温室効果ガス削減を目指しています。



# SUSTAINABILITY REPORT 2024

サステナビリティレポート【リーフレット】

日本生活協同組合連合会は、各地の生協や都道府県別・事業種別の生協連合会が加入する全国連合会です。生協には地域購買生協、大学生協、学校生協、職域生協、医療福祉生協など様々な生協がありますが、ここではおもに店舗や宅配事業を展開している地域購買生協を取り上げています。



レポート本体は  
こちらから  
ご覧いただけます

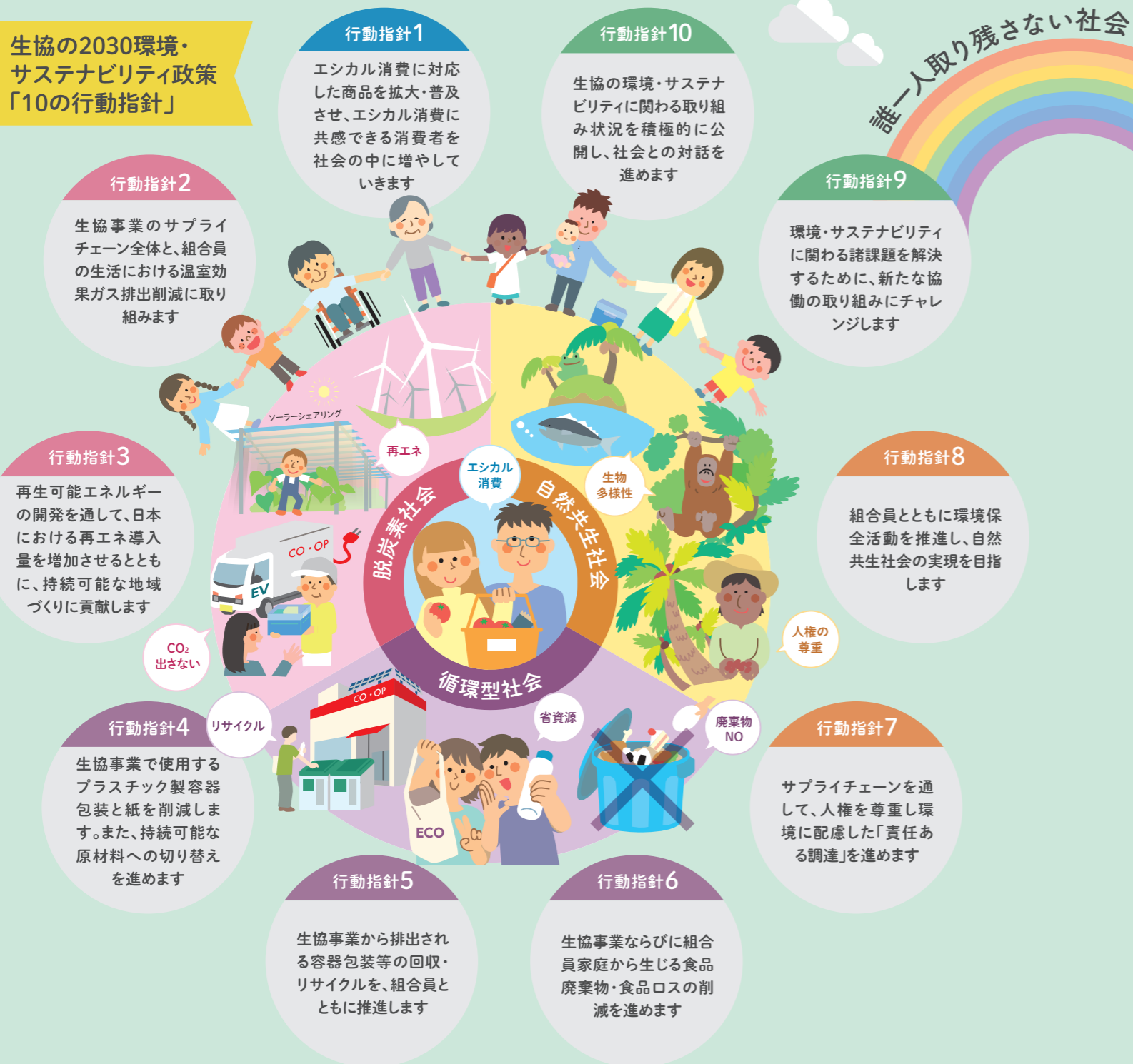


2025年3月発行

# 「すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ」

生協は2021年に「生協の2030環境・サステナビリティ政策」を策定しました。この政策は、持続可能な社会を実現するために、全国の生協の事業と活動で推進する2030年までの政策です。上記のスローガンのもと、10の行動指針と5つの目標の実現を社会に約束しています。

## 生協の2030環境・サステナビリティ政策「10の行動指針」



## 数字で見る生協(コープ)



※上記の数値は自治体との協定締結数を除き2023年度実績です

# 5つの数値目標と生協の環境・サステナビリティの取り組み

## 目標1 CO<sub>2</sub>排出量を2030年に40%削減(2013年度比)します<sup>※1</sup>

再生可能エネルギーの利用を積極的に進めています(再生可能エネルギー導入率45.8%<sup>※2</sup>)



画像提供:コープあいち(EVトラック)

配送トラックのEV化について実用性の調査と段階的な導入を進めています

省エネ設備やノンフロン<sup>※3</sup>の冷蔵冷凍ショーケースを導入したエコストアを出店しています

※1 CO<sub>2</sub>排出量の削減目標は、2025年度から「2013年度比で50%以上削減」に変更します。  
※2 全国の生協が調達している電気、電源構成における再生可能エネルギーの割合  
※3 オゾン破壊係数がゼロであり、代替フロンと違って地球温暖化係数が低い冷媒のこと

## 目標2

## 2030年までに年間発電量4億kWhの再生可能エネルギーを開発します

53生協680か所で、約2.5億kWhの再生可能エネルギーを創出しています



画像提供:生活クラブ千葉(ソーラーシェアリング)

風力発電やバイオマス発電、小水力発電、ソーラーシェアリングに関わっています

地域と共生した再生可能エネルギーの開発を進めています

## 目標3

## 使い捨てプラスチック容器包装の使用量を2030年に25%削減(2018年度比)します

食品トレイや宅配用内袋など、使い捨てプラスチックの使用量の削減を進めており、これまでに13%削減しています



画像提供:ならコープ(常温品での内袋廃止)

店頭や宅配のお届け時に容器包装などを回収しています<sup>※4</sup>

回収したペットボトルなどをリサイクルする取り組みを広げています

※4 回収量は飲料紙パック約4,100トン、ペットボトル約3,400トン、食品トレイ約1,900トン、卵パック約2,100トン

## 目標4

## 商品カタログに使用する紙使用量を2030年に25%削減(2021年度比)します

アプリやWebカタログの利用を広げて、紙の商品カタログの配布停止を選択できる仕組みや、AIを活用して必要最低限の配布にとどめる仕組みを導入しています。これまでに5%削減しています<sup>※5</sup>



画像提供:みやぎ生協(AIを活用した紙カタログの選択配布)

44生協が商品カタログに再生紙や認証紙などを使用しています

※5 すべての生協の事例ではありません

## 目標5

## 食品廃棄物を2030年に50%削減(2018年度比)します

生ごみ処理機の導入や在庫管理などにより、これまでに食品廃棄物を14%削減しています。また食品リサイクルを積極的に進めており、食品リサイクル率は全国生協の平均で78%です<sup>※6</sup>

キズやサイズ違いなどで規格外になる農産物や、それを有効利用した商品、天候被害果実などを販売しています

店舗では期限が近い商品の購入を促す「てまえどり」運動を展開しています



画像提供:コープこうべ(規格外農産物の商品化)

※6 食品廃棄物の発生量のうち、飼料や肥料等に再生利用した量の割合

※数値は日本生協連が65生協を対象に実施した調査実績(2023年度)です。本紙に記載の事例はすべての生協が実施している内容ではなく、特定の生協で実施されている事例も含まれています。各目標に対する到達点や詳細についてはサステナビリティレポート本体に掲載しています。表紙の二次元コードからご確認ください。